



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC  
 （奈良県保健環境研究センター内）



## ● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 保健環境研究センター10月便り



（調査週）平成 24 年 第 39 週 9 月 24 日（月）～9 月 30 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.60	→	↓	→	↑
2	RSウイルス感染症	0.91	↑	↑	↑↑	→
3	突発性発しん	0.40	→	→	→	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	0.31	→	↑↑	→～↓	↓
5	咽頭結膜熱	0.17	→～↓	↓	→～↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は64例で、前週報告の66例からほぼ横ばい。上位5疾患は、①RSウイルス感染症、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④手足口病＝突発性発しんの順。A群溶連菌咽頭炎の報告数（9例）は、増加。RSウイルス感染症の報告数（17例）は、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（5例）も、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（5例）も、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数（13例）は、減少。

また、インフルエンザ定点から、奈良市HC管内；1例と郡山HC管内；4例の計5例の報告があった。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかった。郡山HC管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が1例報告された。

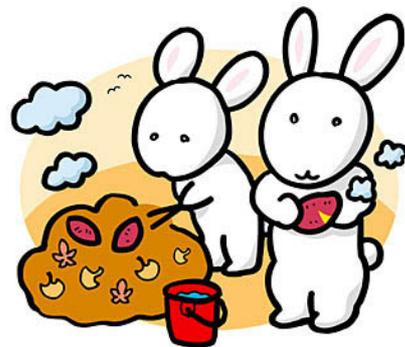
（村井 記）

**県中部地区概況** 報告数は、76 例から 77 例とほぼ同数である。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、突発性発疹、水痘及び流行性耳下腺炎の順であった。感染性胃腸炎は、36 例から 39 例と横ばいであり、RS ウイルス感染症は、10 例から 15 例とさらに増加している。眼科定点からは、流行性角結膜炎 3 例（桜井保健所 2 例、葛城保健所 1 例）の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。

（高木 記）

**県南部地区概況** 報告数（第 38 週→第 39 週）は 11 例→12 例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（1 例→4 例）、①突発性発疹（2 例→4 例）、③ヘルパンギーナ（0 例→2 例）、④手足口病（2 例→1 例）、④マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（1 例→1 例）であった。

（柳生 記）



感染症情報センターホームページアドレス

[http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-27874.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm)

# 【保健環境研究センター10月だより】

## ～RSウイルスが流行しています～

### ◇ RSウイルスについて

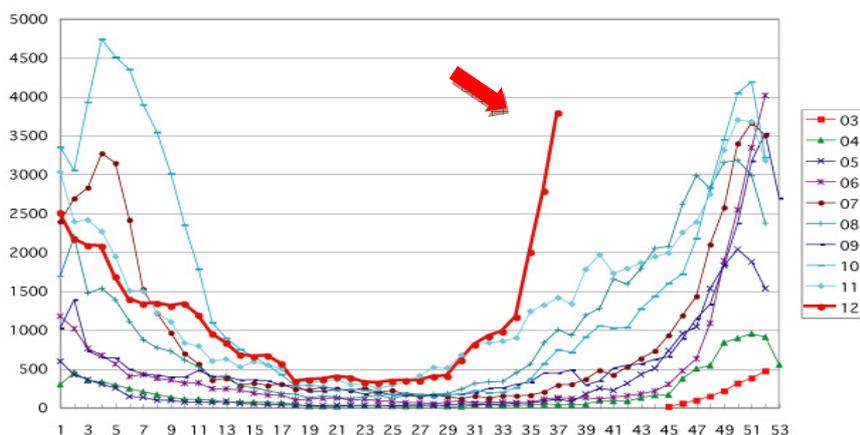
RSウイルスは風邪症状を引き起こすウイルスの一種で、2歳までに乳幼児のほぼ100%が一度は感染するとされています。2～8日の潜伏期間のあと、39℃程度の発熱、鼻水、咳などが数日間続き、細気管支炎となることもあります。

RSウイルスは感染力が非常に強く、1歳未満の乳幼児、特に呼吸器や心臓に先天性の疾患がある場合は重症化しやすく、細気管支炎や肺炎を発症し、緊急入院が必要になることもあります。

### ◇ 全国的に流行が早まっています

RSウイルス感染症の小児科定点医療機関からの報告数は、例年冬期にピークがみられますが、全国的に2011、2012年と2年連続して、7月頃から明らかな増加傾向が見られます(図→)。

2012年の報告数は7/9～7/15(第28週)以降10週連続して増加しており、特に8/20～8/26(第34週)以降は、急激な増加がみられます。



(図)RSウイルス感染症の年別・週別発生状況  
(2003年第45週～2012年第37週)  
(国立感染症研究所IDWR過去10年間との比較グラフより)

### ◇ ウイルスチームでもRSウイルスを検出しています

RSウイルス感染症は病原体サーベイランスの対象疾患ではありませんが、ウイルスチームでは昨年に引き続き、季節外れのRSウイルス感染症の流行を確認するため、9/25までに搬入された検体のうち、上気道炎や下気道炎症状、発熱といったRSウイルスの感染が疑われる29検体について遺伝子検査を実施しました。その結果、4検体からRSウイルスを検出しました。今回調査した検体は、7/2～8/10までに採取されたもので、昨年に引き続き季節外れの流行を確認しました。最も早い人では全国と同様に7月から発症されています。

また、9/24～9/30(第39週)現在、奈良県におけるRSウイルス感染症の定点あたり患者報告数は、感染性胃腸炎に次ぐ第2位となっています。

### ◇ 感染経路を把握し、予防につとめましょう



RSウイルスは、感染者の気道分泌物から咳で生じた飛沫を吸い込み、ウイルスが眼、のど、鼻の粘膜に付着して感染します。有効なワクチンや特効薬はありませんので、自己予防することが重要です。感染していることに自覚のない人が乳幼児や高齢者にうつしていることも考えられるため、よく手を洗い、マスクの着用を心掛けましょう。

(参考) 国立感染症研究所：IDWR 2012年第36号<注目すべき感染症>RSウイルス感染症

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrc/2662-idwrc-1236.html>

(ウイルスチーム 大浦 記)